

御飯 御香の物大こん

一 御焼物 鯛塩焼 一 御取香 五品

一 御吸物 のり 一 御菓子五種

一 御薄茶 こち 一 御せんし茶

御留主居 太内利左衛門殿 桜川武次殿

挨拶二三度被成候

引取候前

今般旦那初入ニ付先例之通被相送候旨にて、御晒子ニツツ、広ふたニのせて御留主居被申渡候、春松殿貴様義者跡より被相送候間其趣承知被致置候旨ニ御座候、難有旨御請申上ル

一 跡よりと申義、近例之御記録二者

富田御隠居様

大谷御隠居様

敬翁様 御三代様御代之節、私木津や両人二者御小袖被下置候御

記録 御屋敷ニ留り有之、右ニ付跡より被下候義ニ御座候

外々一統江者御晒子ニツ宛被下候

尤私江も留主居先例御噂も御座候

春松御返答左之通り申上ル

御先例御小袖拝領仕候旨申上ル、速水春作様京都御勤御座候節哉、

今般御初入ニ付阿波守様より御小袖被下ル、依之屋敷江頂戴ニ可

参旨、御手紙被下候御紙面も御座候、其余御初入之節者御小袖頂

戴仕候旨、只記録ニ相見申候と申上ル

留主居被仰下候二者、古キ書留ニは御晒子之処も相見候へ共 御

三代様程前々之書留小袖と相見申候、右ニ付取しらへ中にて有之候、追而沙汰可致候間相心得居候様被仰下候、難有御請申上ル、私御願申上度奉存候 御小袖も拝領久敷無御座候間、何卒頂戴仕度何分宜奉頼上候、尤家督之節拝領仕、其後御入之節拝領仕候而より久々無御座候間、宜御取斗奉頼上候旨申上ル、留主居御承知被成候

一 御家督ニ付献上物

一 大鷹大緒 一 掛差上ル

御披露状添テ京都御屋敷江持参仕ル

御家督御年号

文化十四九月七日被為 仰蒙候

一 御初入ニ付献上

一 御扇子 五本人 一箱居台のし

伏見御着座之節差上ル

一 御煎茶 一箱台のし

是ハ例毎なり

一 御家督之節御扇子差上候而、御初入之節伏見御着之御時大鷹緒

差上 候方宜敷御座候、此度ハ前後ニなり申候、京御屋敷へ者此段

申上、前 後之処御含置被下候て無難相済申候

右献上物ニ付委キ者、文十四年文化十一戌年記録ニ控置申候

一 昨酉年 御初入之御例式御座候之処、

敬翁様御不例ニ付御式万端今年 御初入之御式御座候

一 御国御家中様方之向、御式昨戌冬御座候旨承申候、御家中江御料

理被 下候ニ付

一御薄茶別儀六斤余御煎茶朝日六斤ヨ被仰付候、此度ハ御国花ヤ太
伊五郎先被仰付候

一別儀 五斤 挽候て相納候旨ニ御座候

挽料斤六匁ツ、被下候

一朝日 御煎茶 貳斤被仰付候

一当年伏見ニおいて折鷹御煎茶献上仕候処、鈴江氏御箱ノ口ヲ御明
御覽被入候処、事ノ外御カンシン被遊候て御蒸菓子十五御内々拝
領仕候、御側大口秀之丞殿も御かんしんの旨御噂御座候、何とそ
御用被仰付被下候様願上申候、止而御沙汰あり候旨被申候

御家老

元メ

蜂須賀駿河様

林弥五右衛門

御年寄

目付

西尾数馬様

中尾宗兵衛

同

同

長坂三郎左衛門様

森平馬

御茶道

一

一 鈴江宗羽老

一 長濱栄次殿

一 露木蘭斎老

醫師

一 加藤枘助殿

一 渡辺一解老

一 仁尾兵太殿

一 伊月了附十老

一 三間雅兵衛殿

一 三木莫伯老

奥坊主

一 佐々木桂右衛門殿

一 久次米茂益

一 大口秀之丞 一 久次米秀輔
一 伴剛太郎 一 三宅兼膳

一 此度御家中方音進例之通

蜂駿河様斗者初而二付 御扇子一箱 三本人

御せんし茶同 半斤

のし居台

一 御茶用相願置

近々被仰付可被下候旨御含可被下候

三月十五日宇治見物御出被成候

十六日八幡御参詣被成候、又々御帰之節宇治御出之旨用人衆噂有之

申候

一 蜂駿河様

佐々木桂右衛門

齊藤愛之助

林 善太夫

長谷川鶴之助

増田哲次

一 林弥五右衛門様

伴剛太郎

渡辺一解

中尾宗兵衛様

大口秀之丞

伊月了附十

森平馬様

庄野賀次郎

三木莫伯

仁尾兵太様

坪内三記之助

舟越伊織

加藤枘助様

三宅源之介

立木文作

齊藤多司馬様

根本源左衛門

森夫左衛門

長濱栄次

津田彦之丞

□川篤之丞

三間雅兵衛

安田増太郎

市原乙三郎

足助幾代太

久次米茂益

加島賢之助

久次米秀輔

若山正三郎

三宅兼膳

原軍左衛門

加古數馬

加藤半次

伊月忠兵衛

多田孫兵衛

樋口丑之助

右名前宿札之通り記ス

一此度到来物

一渡辺一解より 塩蒸玉子 十五

足袋 一足

一林善太夫より 煮取 一壺

一鈴江宗羽老 たはこ 二包

森夫左衛門より

塩ほら一本

矢上仁右衛門より

同断

文化十西九月御家督二付御当職より京御屋敷へ参り候御書付之趣留

置

一筆令啓達候今般 御隠居御家督御願之通被蒙 仰候、依之京住

又者其許居合之面々、太守様江格々列而名書目錄を以御肴一折宛

御隠居様江右同断夫々差上御賀可申上候様可被申聞候、恐惶謹言

九月廿二日

佐渡美濃 判

蜂須賀駿河 判

西尾源右衛門殿

太田章三郎殿

尚以本文御賀申上候

太守様 御隠居様江者御奏者江 御前様江者奥懸り御目附江右よ

り可被懸合候、且右恐悦二付京大坂御出入寺社丁人共義、使者等

指越候義者御取約中之事二候得者可被差留候、以上

右一通

一筆令啓達候、太守様御事 阿波守様、御隠居様御事 敬翁

様与 御名務御願之通被為濟候二付、京住又者其許居合之面々、

太守様 御隠居様 御前様江右御賀可申上候

右之段得其意夫々可被申聞候恐惶謹言

佐渡美濃 判

九月廿四日 蜂須賀駿河 判

西尾源右衛門殿

太田章三郎殿

右老通 都合式通

当 殿様御家督之節者左之通献上

一御扇子 五本入 一箱 御のし居台

一御鷹大緒 一箱 同

但シ一懸むらさき

御初入二付

一御扇子 一箱 御のし 伏見御着之上

居台 献上二相成ル

右之通献上仕候、御屋鋪江持参仕候而御役所から御留主居江御指出

之事、御披露状添て

右献上物之處者

御家督之節 御扇子斗

御初入之節 御鷹大緒上ルかた宜御座候

此度之処吟味不行候ニ付右之通ニ相成ル、以来相心得可申候事

一御隠居様江献上

一御煎茶 壺箱 のし居台

一御手焙 一ツ 箱入 御のし

ばん石宗ほん形

右御屋敷へ持参仕候

御披露状相添

右之通御座候、委事者文化十同十一年記録ニ留置申候、相しらへ可

申候事

一今度御入ニ付借り物覚

二見光淋之筆画

一なんばん置花生

右二品宗見ニて借用

一光信筆鷹之屏風

右恵心院ニて借用

一宗和形家具 式拾人前 竹助より

一同 拾人前 指六より

此外不残内之道具用イ候

一取持之人 宗見 味卜 卜意

手代分

指六 栄蔵 藤蔵

日用八人

頭弥平 塩弥平 与助 岩吉 文二郎 庄兵衛 辰吉 久兵衛

料理方藤吉 京より老人

肴横落権兵衛 青物京

肴ものよとあけニ致させ申候、此段権兵衛へたのミ申候

一太守様江戸御着座之由四月八日京へ御尋ニ遣申候処、三月廿九日

無御 滞御着座之旨申来ル

以 手紙致啓達候

阿波守殿先達而初人之為祝儀、今般鹿抹之料理被申付、於当屋鋪

進可 申処、狭少ニ付丸山や阿弥ニ而相催候条、来ル廿九日正未刻

御出被成 度候、此段被申付越候ニ付如斯御座候、以上

四月廿三日 西尾源右衛門

上林春松様

右御手紙四月廿四日木津やより達ス

御手紙被下忝拜見仕候、然者

殿様御初入之為御祝儀、今般御料理被下置候ニ付、来ル廿九日正未

刻参上仕候様被仰下、不相替頂戴仕参上可仕難有仕合奉存候、猶以

参御礼可申上候得共、先御請申上度以書中申上候、以上

四月廿六日 上林春松

西尾源右衛門様 御請

阿部祐右衛門様

太内利左衛門様

桜川武次様

右三人之御方江も以書中御礼申上置候

御手紙致拜見候、弥御堅栄奉賀候、然者、来ル廿九日料理進申義ニ

付御丁寧之御書面被入御念候義奉存候、尚御待申候間心事期拜顔候、

